

▼フレンズコーナー

「右手にスコップ・左手に缶ビール」で地域を創る！
～地域協働で「水の都・三島」の環境資源を再生～

NPO法人グラウンドワーク三島専務理事
渡辺 豊博



取り組みの概要

グラウンドワーク三島は、1992年から29年間にわたり、複雑に絡み合った困難な地域課題を解決すべく、バラバラに活動して利害が対立する市民・行政・企間の調整・仲介役となり、共存共栄の新たな「地域協働」の仕組みづくりと、具体的な「現場モデル」を実践・蓄積してきました。

この「課題解決力」の源泉は、本会に参画する20の市民団体が一体化した「市民ネットワーク」の力であり、その多種多様な市民力・地域力を束ねる中間支援組織としての「コーディネート・マネジメント」の力です。

活動の成果は、ドブ川と化していた「源兵衛川」を、ホテルが乱舞し、子どもたちが水遊びに興ずる水辺空間に創り上げたり、環境悪化の進行により消滅した、水中花・三島梅花藻の増殖基地である「三島梅花藻の里」を造成して復活させたことです。

また、歴史的な井戸や水神さん、市内の幼稚園・小中学校を対象とした「環境出前講座」の開校、市内4校での学校ビオトープの造成による環境教育活動など、三島市内を中心として70箇所において、市民力と地域力、現場力を結集した、多様な環境改善活動を実践してきました。

これらグラウンドワーク三島の活動実績は、地域協働のまちづくりの先進的なモデルとして、国内外から高い評価を受け、毎年約1,500人・約100団体が視察や研修に訪れており、三島の現場モデルが全国モデル・成功モデルとして、他地域に波及しています。



●アクションで現場を創る

社会的ニーズへの対応
環境資源の危機的状態が活動の起爆剤

- ① 変わり果てた『水の都・三島』の水辺自然環境
- ② バラバラな市民・NPO・行政・企業
- ③ 難しいパートナーシップの構築

イギリスで始まったグラウンドワーク手法を導入、実践

- ・ 仲介型NPO「グラウンドワーク三島」の結成
- ・ 水辺自然環境の再生、原風景・原体験の復活
- ・ パートナーシップの有益性と発展性を実証
- ・ 「NPOの特性」をフル動員
自由度、迅速性、行動力、独創性、先駆性、柔軟性、多彩性、汎用性、社会的波及効果、教育的波及効果

●環境資源の危機が原動力

グラウンドワーク三島の役割

- ・ **市民**・・・現場で汗を流す
市民力・地域力を結集
- ・ **企業**・・・協力する
専門性を発揮、資機材提供
- ・ **行政**・・・支援する
資金援助・制度的支援・物的支援
- ・ **グラウンドワーク三島**・・・調整・仲介する
中立的・専門的な支援と役割

行政
市民
企業
グラウンドワーク三島

●段取り・調整が役割

代表的なプロジェクト

①源兵衛川エコロジーアップ活動

源兵衛川は、中心市街地に位置する全長 1.5km の農業用水路・都市河川です。1960 年代半ばから深刻な環境悪化が進行しましたが、1990 年以降、市民による年間 40 回以上の継続的な清掃活動と住民参加による親水公園化事業の計画づくり、農林水産省の水環境整備事業の導入などの総合的な取り組みにより、中心市街地に豊かな水辺自然空間の原風景と水と触れあえる潤い場が復活し、観光スポットになっています。

本会は、源兵衛川の「環境モニタリング調査」を行い、水辺環境の経年的な生息状況の把握と外来種の除去、在来種の導入による希少種の生息環境の再生活動を実施しています。また、ホトケドジョウやゲンジボタル、カワセミが生息できる水辺環境の整備を図り、源兵衛川から消滅したミシマバイカモを、増殖基地である「三島梅花藻の里」から源兵衛川に移植させ、多種多様な生き物が生息できる自然度の高い川を創り上げてきました。

さらに、川の維持管理を担う人材育成に取り組み、2004 年から「リバーインストラクター養成塾」を開講し、延べ 200 人の「案内人」を育成しています。

②松毛川千年の森づくり活動

松毛川は、源兵衛川の最下流域に位置する、狩野川流域に唯一残された 6ha の旧河川敷・止水域です。両岸には、狩野川の原風景であるエノキ、ムクノキ、ケヤキなど約 1,300 本の樹木からなる河畔林が広がり、樹齢 100 年以上の巨木が 130 本以上も残存する、全国的にみても貴重な「ふるさとの森」です。

しかし、土地所有者の高齢化と農地・森林の管理放棄により、河畔林周辺は繁茂した放置竹林に覆われ、風雨や老朽化による倒木や枯死も発生して、大切な「ふるさとの森」が消滅の危機に瀕していました。

そこで本会では、松毛川を「千年の森」と位置付け、2003 年から地域協働による環境改善活動を実施してきました。これまでに河畔約 2.4km に及び竹林伐採や潜在自然植生の苗木 6,000 本以上の植樹、外来種ホテイアオイの駆逐、2t トラック数百台分以上のゴミの除去、「松毛三日月会」などの地元愛護会の結成、自然観察会の開催、大学生の現場体験や企業の CSR 活動の場として活用、県による「地域用水環境整備事業」の導入・提案を進めてきました。



●ホタルが舞う清流が復活



●「環境のバロメーター」が再生



●狩野川の旧河川敷と河畔林



放置竹林に覆われた河畔



放置竹林伐採作業



放置竹林伐採後の河畔林(ご神木現る)

●森づくりのプロセスと成果

活動への参加者は年間延べ 500 人にも及び、経費は毎年 200 万円程度を助成金や補助金を活用して投入しています。

現在、「地域用水環境整備事業」が 2019 年に県営事業として事業化され、浚渫工事と環境整備工事が実施されることになりました。また、本会の「松毛川千年の森づくりトラスト運動」により、三島市側の河畔林約 3,000 m²の土地買収も実現しました。この 18 年間にわたる、ノコギリとゴミ袋を持った地道な活動が、松毛川の環境保全と景観形成、地域環境と共存した森づくりへと成果を蓄積してきました。

③境川・清住緑地再生活動

境川は、三島市と駿東郡清水町の境を流れる一級河川です。中流部の左岸に位置する「境川・清住緑地」は、市街地の中にありながら豊かな樹林帯や多数の湧水池、水田が点在する約 8,500 m²の谷地田です。

1995 年から 2000 年の間、本会が遊水池の環境整備計画の調整・策定を担い、原自然を活かしたビオトープを造成しました。完成後は、「境川・清住緑地愛護会」が設立され、市民主体の維持管理を担い、原風景である低湿地の自然が保全・維持され、多様な動植物が生息するとともに、稲作体験など、隣接の三島市立西小学校の「環境教育園」として、年間 10 回以上も活用されています。

2015 年には、南隣に位置する、湧水を水源とする複数のコンクリート池が点在する養魚場跡地約 3,000 m²を、本会の提案と調整により、民間企業から三島市が買収し、ビオトープの拡大を実現させました。

また、本会は、自然環境調査や計画案策定のワークショップ、ワンデイチャレンジなどを実施し、「ミチゲーション（生態系の強化）工法」の実施、市民主体の維持管理体制の構築を進めてきました。

その結果、2020 年 8 月に境川・清住緑地が拡大され、富士山からの湧水が噴出する「水柱」が見学できる湧水公園が整備・完成しました。公園内には自然水路を造成し、ミシマバイカモを移植し、現在、定着して白い花を可憐に水中で咲かせています。



●境川・清住緑地のビオトープ



●田んぼの学校



元養魚場の湧水地が埋立
消滅の危機



ミチゲーション工事



復活した湧水の水柱

●改変・破壊された湧水地をミチゲーション工法で再生



●せせらぎ環境案内処

今後の展開

今後、市内を流れる川沿いの空き家を活用した水辺のレストランやカフェ、憩いの空間形成とともに、白滝公園・桜川・御殿川・三島梅花藻の里・源兵衛川をつなぐ、新たな街歩きの回遊路を設定して「水の都・三島」の魅力の多彩化を図り、三島の賑わいの強化を進め、環境資源を地域資源に活用した「湧水網都市」をさらに発展・強化していきます。

●私たちは、土木学会インフラ
パートナー団体の仲間です。

